

世界の医療団

2025年度 年次報告書

2025年1月1日～12月31日



「誰もが治療を受けられる未来を」

“POUR UN MONDE OÙ CHACUN PEUT ÊTRE SOIGNÉ”



©Pulse Bangladesh society



支援者の皆さまへ

2025年度も、世界の医療団 日本の活動を支えてくださったすべての皆さまに、こころより御礼申し上げます。皆さまから寄せられる継続的なご支援と連帯の思いが、医療から取り残された人々に確かな支えを届けてきました。本年度は、阪神・淡路大震災支援を契機に始まった当団体の日本での活動が、30周年という大きな節目を迎えた年でもあります。

世界では依然として紛争や災害、社会的不安が続き、医療へのアクセスが脅かされる状況が深刻化しています。私たちは、ラオスにおける保健事業、バングラデシュでのロヒンギャ難民支援をはじめ、パレスチナ、ウクライナなどの海外事業に取り組むとともに、日本国内においても、在日外国人や社会的に孤立しやすい人々への医療・健康支援を継続してきました。現場で活動するスタッフやボランティア一人ひとりの献身在、人々の尊厳を守る力となっています。

世界の医療団は、医療は人権であるという原点に立ち、医療提供にとどまらず、不公正や排除の構造に向き合い、声を上げ続けてきました。次年度は、能登の被災地をはじめとする、こころのケアを含む国内事業にも一層注力してまいります。これからも皆さまと共に、誰ひとり取り残されない医療の実現に向けて歩みを進めてまいります。

今後とも引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

世界の医療団 日本
理事長 **横森 佳世**



最も支援の届きにくい人々のもとへ
「誰ひとり取り残さない」

パレスチナ・ガザで子どもたちを診療する
© MdM France

ビジョン

医療サービスへのアクセスを阻むいかなる障壁も存在しない世界、医療へのアクセスが一人ひとりの権利として確立している世界を希求します。

世界の医療団の2つの活動

医療支援

国籍、人種、民族、思想、宗教などのあらゆる壁を越え、心身の治療に加え、持続して健康な状態を保てるよう、保健医療・公衆衛生分野において活動しています。

証言

必要な医療サービスにアクセスできない原因や障壁、その現状について証言します。当事者の声や状況を広く伝え、政策提言につなげ、社会の仕組みを変えるよう働きかけます。

治療

病気・ケガの治療
メンタルヘルスケア
リプロダクティブヘルスケア
医薬品・医療資機材の提供

予防

健康教育
感染症対策

医療体制の構築・整備

医療従事者の育成
医療施設の整備・運営支援
行政との連携

情報発信

政策提言

(アドボカシー)

活動理念

社会主義

医療サービスへの平等なアクセス、基本的人権の尊重、連帯意識の共有を希求します。

自立支援

すべての人びとが自己の健康に対する当事者となり、自らの権利を行使できるよう支援します。

独立性

すべての政治、宗教、経済による権力、利害から独立しています。

コミットメント

献身的に、そして高いスキルと専門知識、職業倫理を備えたプロ集団として活動します。

バランス

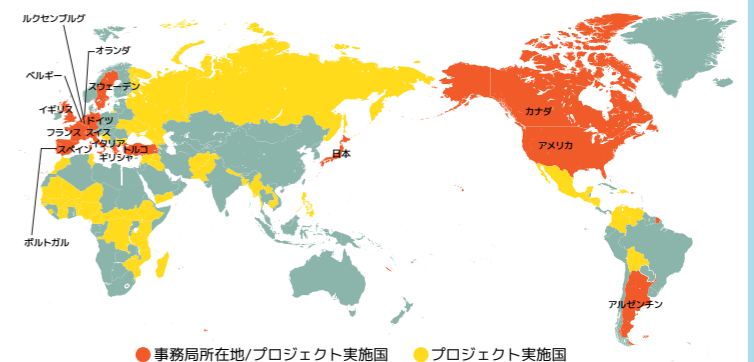
国内外での活動、緊急と中長期プログラム、医療と周辺サービス、官民の資金、それぞれのバランスを尊重します。

世界の医療団のネットワーク

「健康が基本的権利として認められる世界」という共通のビジョンで結ばれた17⁷の市民社会団体で構成されています。私たちは医療ケアを提供し、証言し、社会変革を提唱し、不正義とも闘います。私たちは、誰もが医療へアクセスできるよう協力し合っています。

私たちのネットワークは、国内外で400以上のプログラムを70ヶ国以上で実施しています。世界中で、健康が脅かされている人々が質の高い医療サービスを受けられるように活動しています。

※フランス・ドイツ・ベルギー・ルクセンブルグ・オランダ・スイス・イギリス・スウェーデン・スペイン・ポルトガル・イタリア・ギリシャ・トルコ・アメリカ・カナダ・アルゼンチン・日本



【医療支援】



世界の医療団のネットワークを通じ、世界各地で頻発する紛争や暴力、自然災害、貧困に苦しむ人々の命と健康を守る活動に力を注ぎました

世界の医療団の運営するガザのクリニック



子どもたちの栄養状態について診察データをもとに報告書を作成



食料配布と組み合わせたところのケアは大きな効果を上げた



【ガザ】
 1134人
 MHPSS提供

8579人
 食料支援対象者

【ヨルダン川西岸】
 2217人
 医療サービスを受けた人

9ヶ所
 支援した医療機関

パレスチナ

爆撃、相次ぐ強制避難命令、食料・水の厳しい搬入制限など、過酷な環境のなかで診療を継続

2023年10月に始まったハマスとイスラエルの衝突は、ガザで7万2000人を超える死者*を出しました。攻撃に加え物資の搬入制限によって飢餓が蔓延し、多くの子どもや高齢者などが命を落としました。世界の医療団は、現地で活動するスタッフ自身も命の危機に直面しながらも、医療の提供を継続。避難所や移動診療での一般診療に加え、メンタルヘルスと心理社会的サポート（MHPSS）にも重点を置き、個別とグループによるカウンセリングを実施。脆弱層にはMHPSSに加え食料を配布しました。また、ヨルダン川西岸においてもイスラエル軍や入植者による暴力が激化。現地の病院と緊密に連携しながら救急外来の設置やメンタルヘルスクエアなど、長期にわたって危機にさらされてきた地域の回復力を高める支援を行いました。また、パレスチナの状況を国際社会に訴えるため、報告書や声明を発売し、即時停戦と封鎖の解除、各国の支援を訴えました。

* <https://www.ochaopt.org/content/humanitarian-situation-update-357-gaza-strip>



過酷な廃棄物処理の労働現場で働く人々を支援



© Christophe Da Silva

3917人
 受益者

20ヶ所
 支援した医療機関

103人
 研修を受けた医療従事者

ネパール

廃棄物処理や、農業による健康被害を受ける人びとが医療サービスを受けられるよう支援しました

ネパールでは、廃棄物の処理は移民や最下層とされる階層の人々が担い、賃金は安く差別や偏見にさらされています。危険を伴う仕事ながら、医療へのアクセスは極めて限定的です。また、農家は大量の農薬を使い、呼吸器や皮膚疾患のリスクが高い状態です。世界の医療団は、首都カトマンズとインド国境近くのネパールガンジでこれらの人々を中心に支援しています。

2025年は、ジフテリアと破傷風の無料予防接種や健康保険への加入など、医療へアクセスできるよう支援しました。また、人々が自身で健康を守るよう意識向上とエンパワーメントも促進。さらに、地元自治体と協力し、保健医療施設の強化に努め、人々の労働における健康上の安全や衛生が基礎診療に含まれるようサポートしました。包括的で迅速な医療提供に向けた重要な一歩です。

ウクライナ

長らく戦争。子どもや若者のこころのケアが急務

2022年2月24日のロシアの侵襲から4年がたっても戦争の終結の兆しは見えてきません。長らく戦争で、人々は常に緊張を強いられ、大きなストレスを抱えています。世界の医療団は移動診療車も活用し、メンタルヘルスクエアを含む医療を提供しています。さらに医薬品等に加え、インフラが破壊された地域には発電機なども提供。また、医療従事者への研修、病院補修など医療体制の強化も支援しています。なかでも前線に近い地域の住民、特に子どもと若者のこころのケアは重要で、地域が一体になって支える仕組みづくりに注力してきました。2025年10月にはその活動がWHOに認められ、表彰されました。



3598人
 受益者



車両の入れない場所には、医療資機材を運び歩いて赴く

47万4795人
 受益者

58ヶ所
 支援した医療機関

278人
 研修を受けた医療従事者



マダガスカル

ジェンダーに基づく暴力の被害者やセックスワーカーらに医療を提供。人権を守る取り組みも

マダガスカルは世界最貧国の一つであり、大規模な干ばつや巨大サイクロンなどに度々見舞われ、数多くの課題に直面しています。世界の医療団は1986年から、緊急対応に加え、性と生殖に関する保健サービスの向上、セックスワーカーのリスク軽減などの支援を行ってきました。2025年は、特にジェンダーに基づく暴力の被害者やセックスワーカーに対し、HIV/AIDSを含む性感染症、安全でない中絶につながる望まない妊娠へのケアを実施。護身術ワークショップも開始し、被害者たちのこころの支えになっています。また、地域一体となって差別や偏見から彼らの人権を守り、公衆衛生を向上できるように、地域の宗教指導者と医療従事者らに研修を実施。国の保健政策へ影響を与えられるようアドボカシーも行いました。



子どもたちへのカウンセリング



精神保健フォーラムでの受賞の様子

コロンビア

武装勢力による暴力にさらされる僻地の人々を支えるため、船による医療の提供や地域医療体制の強化に注力

半世紀以上続いた内戦からの復興の途上にあるものの、各地に残る武力グループによる抗争や暴力が継続。性暴力の被害にあう女性も多く、人々のこころは疲弊し、心身両面でのサポートが欠かせません。世界の医療団は、チョコ、ナリーニョ、カウカ、バジェ・デル・カウカの各県で、陸路からのアクセスが困難な地域には川から移動診療船を使い、医療を提供しています。基礎診療に加え、性と生殖に関する健康相談、メンタルヘルスおよび心理社会的サポート相談などを行いました。また、マラリア、結核、HIV/AIDSなどについての予防と適切な管理のための情報を提供。さらに地元自治体と連携して感染症の拡大防止につながる疫学サーベイランスの導入や、医科大学との連携した地域の医療従事者への研修など、医療体制の強化にも貢献しました。



2万6421人
 一次医療診療数

1861人
 メンタルヘルスの相談数

2ヶ所
 支援した医療機関



定期的な診療は人々にとって大きな安心材料に



世界の医療団 日本はアジアの拠点として
医療のアクセス強化をめざしました。

© MdM Japan

ラオスの山岳地帯の村の人々への健康教育

ミャンマー

以前からの活動拠点を足掛かりに、 地震への緊急支援を迅速に開始

2025年3月にマンダレーを中心に発生したマグニチュード7.7の地震は死者3700人以上という大きな被害を出しました。世界の医療団は、以前から首都ヤンゴンとカチン州でHIV/AIDSの影響を受けているセックスワーカーや薬物依存者に人々に「ハームリダクション*」を行ってきました。ヤンゴンでは性と生殖に関する健康と権利（SRHR）サービスも実施しています。地震発生直後に、現地の世界の医療団のスタッフが被災地に赴き、支援を開始。元々あった医療機関の対応能力が限界を超え、医療資機材の流通も寸断されるなか、移動診療による心身両面へのケア、女性や高齢者などへの支援、そして被害を受けた医療施設の復旧など迅速に行いました。これらの活動は、地元自治体の信頼を得て、緊急支援後もこの地域で活動を継続できるようになりました。

*すぐに行動を変えることが難しい場合に、
極力危険や害を減らすようにする取り組み



© MdM France

地震直後に現地へ赴き、支援を開始

1万7738人
受益者

21ヶ所
支援した医療機関

147人
研修を受けた医療従事者

ラオス（地域医療強化プロジェクト）

医療へのアクセスが限られた山岳地帯。 健康教育や出張医療で、母と子どもの命を守る

5歳未満児死亡率と妊産婦死亡率の高いラオス。国土の7割が山岳地帯で、そこに住む人々の医療機関へのアクセスは困難です。世界の医療団は母子保健サービスの向上をめざし、地元行政と連携して、村に赴いてワクチン接種、健康診断などを実施するとともに、村落保健ボランティアを育成し、村の人々に健康教育を実施して自分たち自身で健康を守る仕組みづくりを行っています。また、医療従事者の研修、地元医療機関の運営能力強化も支援しています。継続した取り組みにより、慣習的な自宅分娩ではなく病院で分娩を選んだ若い母親と赤ちゃんが、出産時に危険な状態に陥っても、訓練を受けた医療従事者らの的確な処置で命が救われるなど、着実に成果が生まれています。

2363人
健康教育を受けた人

82人
指導を受けた医療従事者

クアン郡 サムヌア郡
97% 62%
ワクチン接種を受けた
1歳未満児の割合

クアン郡 サムヌア郡
81% 62%
病院での安全な出産をした
女性の割合



© MdM Japan

ワクチン接種の際に子どもたちの健康状態も確認する

バングラデシュ（ロヒンギャ難民コミュニティ支援）

死亡率の7割を占める非感染性疾患の予防と 適切な管理のための事業に注力

世界最大級のロヒンギャ難民キャンプとホストコミュニティの両方で、罹患者の多い高血圧や糖尿病などの非感染性疾患の予防と適切な管理のための事業を行っています。2025年はミャンマーで激化する紛争から逃れて流入する人々が増加。その一方で、世界各国が援助額を減らしたために教育機関が閉鎖されるなど、人々を取り巻く状況は悪化しました。健康への影響も懸念されるなか、事業の対象者を15歳以上に引き下げ、若いうちから自ら健康を守るよう正しい食生活や運動の指導を行い、医療機関の受診を促しました。「これまで健康について知る機会がなかった」と住民に喜ばれました。また、医療従事者のトレーニングや医療資機材の提供など、医療施設の強化も支援しました。

【ロヒンギャ難民キャンプ】

966人
集団型健康教育を受けた人

390人
個別型健康教育を受けた人

【ホストコミュニティ】

5156人
集団型健康教育を受けた人

1478人
個別型健康教育を受けた人



ラオス（スマイル作戦）

日本の医師らが現地医療従事者と形成外科手術を実施 高い技術と知識を現地に伝える

日本の医師らが無償で開発途上国に赴き、形成外科手術を行うスマイル作戦。ラオスでは薪を使うかまどが地面に設置してあるため、やけどをする人が後を絶たず、また、戦争の名残のクラスター爆弾の爆発などによって怪我をするケースが多いのです。しかし、これまで現地の医療水準ではきれいに治すことができませんでした。日本の医療従事者が現地の医師らと手術を行うことで、患者の治療と同時に、技術と知識を伝え、将来的に現地で治療できるようになります。2025年は5月と12月に実施。9件の手術を行いました。術後のフォローアップも行い、いずれも順調に回復。外見上の傷跡や機能的な障害が解消されたことで、患者たちの生活の質が格段に上がり、自信をもって過ごせるようになりました。これまでいじめられていた子どもも、明るく活発に過ごしています。

9件
手術件数

53人
医療従事者に技術を伝える



© MdM Japan

以前スマイル作戦で、娘と同じ症状の手術が成功したことを聞き、手術を決意した母親。「先生から事前に丁寧に説明してもらい安心して任せられました」と話す



© Pulse Bangladesh society

ホストコミュニティで健康教育と血圧や血糖値を計測するイベントを開催



© MdM Japan

患者の通院の付き添い支援



© MdM Japan

日本の医師らが現地の医療従事者とともに手術を行うことで、技術の移転をめざす

2025年度の活動 【証言活動】

紛争や災害にともなう医療支援活動について、ウェブサイト、SNS (Facebook、Instagram、X)、プレスリリース、メールマガジンなどで活動の成果、人々の状況やメッセージ、団体の声明などを迅速に詳細に発信しました。オンラインイベントでは、3月に「2024年度活動報告会 混迷の時代のNGOの活動」、8月に「ロヒンギャ難民の今、そして未来」を開催。大きく変わる世界の情勢などを踏まえて現場での支援活動について報告しました。また、超党派人道議員連盟の会合に出席し、議員や外務省関係者にガザにおける活動について伝えました。年4回、中・高校生たちの事務所訪問も受け入れ、国際協力や医療支援活動について考えを深めてもらいました。



超党派人道議員連盟の会合で、ガザでの飢餓の状況を伝える報告書について発表
© MdM Japan

識者をゲストに呼び、2024年度活動報告会とロヒンギャ難民支援についてのウェビナーを、3月と8月に開催 © MdM Japan

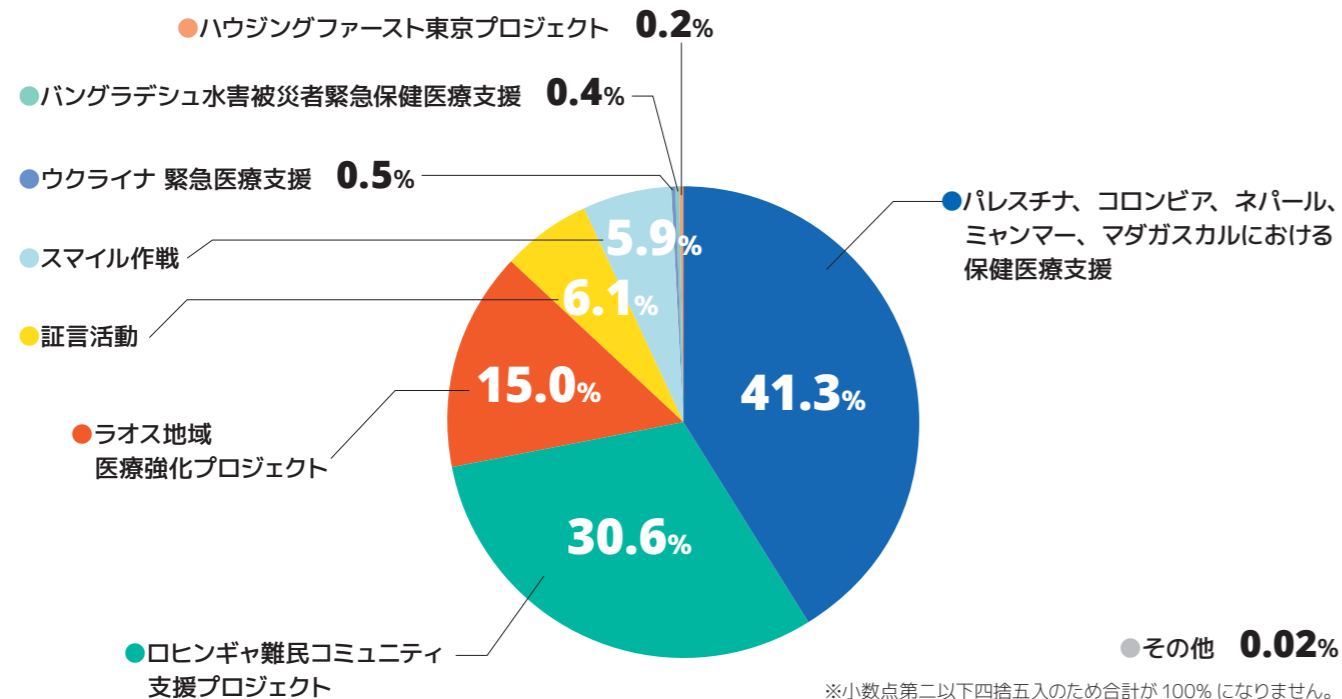


中高生たちは、事務所で学んだことをまとめ、学校で発表してくれた
© MdM Japan

●プレスリリース：8本 ●講演・セミナー：7回 ●執筆・寄稿：1本

主なメディア掲載	国際開発ジャーナル9月号「誰もが権利として医療につながるように活動」
	週刊女性11月11日・18日合併号「愛子さま世界デビュー 医療と平和をつなぐ使者に」
執筆	NHK静岡局/中日新聞/静岡新聞ほか 11月「ガザの惨状伝える」「ガザ地区の窮状「飢餓」生々しく」
	時事通信社 e-World Premium 2025/7 米・ミャンマー情勢に翻弄されるロヒンギャ難民（中嶋秀昭）

2025年度に実施した各プロジェクトの費用の内訳



2025年度の活動 【財政報告】

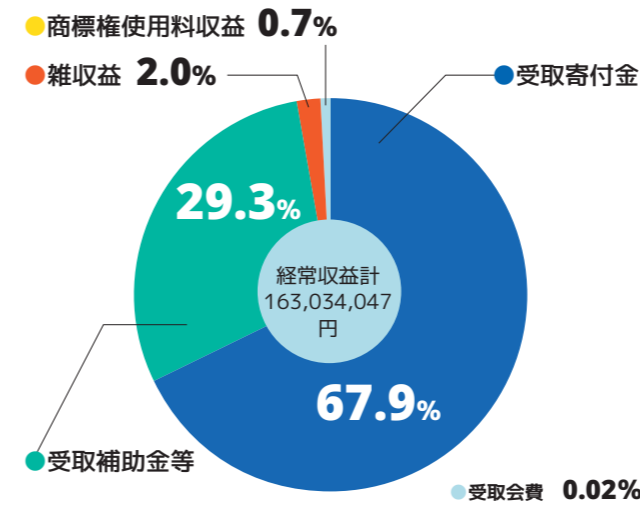
2025年度は前年度に比べて、助成金の収入が減少し、その分の事業支出も減っています。自己資金を増やすために、マンスリーサポーター獲得に注力しました。創立30周年を迎えたことから、年間で300人獲得を目標に、イベントなどに積極的に出展して声かけを行いました。その結果、活動に共感して下さった312名が新たに会員に。一方で、会員の高齢化などから退会する人も多く、2026年は新規獲得に加え、退会率を抑える施策を行い、より安定した組織基盤づくりをめざします。

正味財産増減計算書 (2025年1月1日～2025年12月31日)

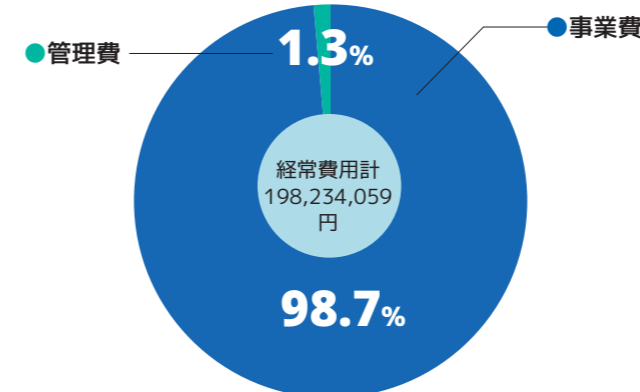
(単位:円)

科目	金額
I. 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①受取寄付金	110,772,058
キャンペーン寄付金	21,930,002
スマイルクラブ寄付金	81,416,599
その他寄付金	7,425,457
②受取補助金等	47,722,255
民間助成金振替額	21,784,978
国庫助成金振替額	25,937,277
③受取会費	40,000
正会員受取会費	40,000
④雑収益	3,296,734
受取利息	56,912
為替差益	2,921,081
雑収益	318,741
⑤商標権使用料収益	1,203,000
商標権使用料収益	1,203,000
経常収益計	163,034,047

収入



支出



科目	金額
(2) 経常費用	195,580,002
①事業費	
人件費	26,232,332
旅費交通費	3,723,648
通信費	1,684,825
イベント経費	0
ミッション経費	109,103,854
事務用品費	467,824
支払報酬料	4,122,336
リース料	358,222
保険料	478,466
業務委託費	36,032,337
広告宣伝費	1,230,130
支払手数料	4,756,587
地代家賃	5,276,340
水道光熱費	320,099
減価償却費	249,007
参加費	621,373
諸会費	908,428
採用教育費	0
雑費	14,194
②管理費	2,654,057
人件費	999,369
旅費交通費	47,012
通信費	46,115
事務用品費	18,214
リース料	16,878
保険料	1,446
業務委託費	741,711
広告宣伝費	14,850
支払手数料	98,450
地代家賃	231,660
水道光熱費	15,084
減価償却費	55,048
参加費	1,035
諸会費	42,805
支払報酬料	171,229
雑費	12,151
為替差損	0
その他(住民税)	141,000
経常費用計	198,234,059
当期経常増減額	△ 35,200,012
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
前期損益修正益	1,153,830
経常外収益計	1,153,830
(2) 経常外費用	
前期損益修正損	3,082,693
固定資産譲渡損	0
経常外費用計	3,082,693
当期経常外増減額	△ 1,928,863
当期一般正味財産増減額	△ 37,128,875
一般正味財産期首残高	76,365,291
一般正味財産期末残高	39,236,416
II. 指定正味財産増減の部	
受取補助金等	47,722,255
一般正味財産への振替額	47,722,255
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III. 正味財産期末残高	39,236,416

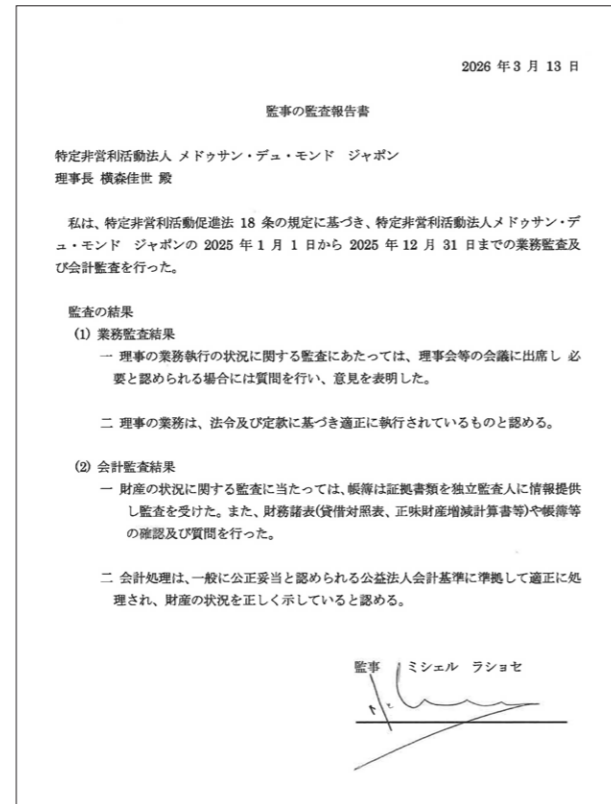
貸借対照表 (2025年1月1日～12月31日)

(単位:円)

科目	当年度
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	103,725,443
貯蔵品	59,220
未収入金	9,069,908
前払費用	1,680,395
前渡金	38,123,555
仮払金	210,329
流動資産合計	152,868,850
2. 固定資産	
その他固定資産	
①有形固定資産	199,743
建物	1
機械装置	1
什器備品	100,485
一括償却資産	99,256
②無形固定資産	0
ソフトウェア	0
③投資その他の資産	875,950
敷金	772,000
長期前払費用	103,950
その他固定資産合計	1,075,693
固定資産合計	1,075,693
資産合計	153,944,543
II. 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	42,095,745
未払費用	2,626,519
前受金	69,221,242
預り金	694,621
未払住民税	70,000
流動負債合計	114,708,127
負債合計	114,708,127
III. 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
	0
2. 一般正味財産	
一般正味財産	39,236,416
正味財産合計	39,236,416
負債及び正味財産合計	153,944,543

会計の監査報告

毎年1名の監事による会計および業務の内部監査、外部の独立した監査法人による会計監査を実施しています。内部監査、外部監査ともに、適性に処理されていると報告を受けました。



支援者からのメッセージ

日本のみならずラオス、バングラデシュ、パレスチナ、ウクライナなど様々な地域にて医療活動を行う皆さまに深い敬意を表します。皆さまとともに、世界のすべての人々が医療につながる社会への祈りをこめて寄付させていただきます。

日頃から人道支援に興味があり、テレビで見るたびに何かできることを、と思っていたところ、声を掛けていただきました。踏み出せる一歩だと思い、マンスリーサポーターになりました。

本来あるべき医療やその他支援を、身を挺してやっていただき感謝致します。

ご協力いただいた企業・団体

2025年度にご支援をいただきましたすべての法人・企業のみなさまに対し、改めてお礼申し上げます。

[パートナー] (五十音順・敬称略)

アサヒブリテック(株)/アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド/いちよし証券(株)/インフォーマ マーケッツ ジャパン(株)/エーツーケア(株)/エドワーズライフサイエンス(株)/ (株)EMY (株)グランジュテ/お宝エイド/(株)クニエ/(株)グリーンティングライフ/(一財)ザ・ブラフ・クリニック/小豆島ヘルシーランド(株)/(株)湘南ベルマーレ/(有)創美社/(株)パリュブックス/Yahoo!ネット募金/(株)南大通りビル/リンベル(株)/Red, Gold Green Corp.
※紙面の都合上、抜粋とさせていただきます。

[プロボノ]

小林意匠研究所/長島・大野・常松法律事務所/ペーカー&マッケンジー法律事務所/ホワイト&ケース法律事務所 ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所(外国法共同事業)/専門学校 HAL(学校法人日本教育財団)

法人パートナー募集

世界の医療団はさまざまな法人・企業と連携して世界各地に医療を届けています。寄付金による支援のほか、コラボ商品による寄付、物品の提供、プロボノなど、多様な協働の方法があります。

[お問合せ] 電話: 03-3585-6436 E-mail: info@mdm.or.jp

寄付のご案内

世界の医療団は「認定 NPO 法人」として東京都より認定されています。世界の医療団へのご寄付は税制上の優遇措置(寄附控除等)を受けることができます。領収書は年間一括で1月下旬に発送します。

●毎月の寄付(スマイルクラブ)

継続したご支援により、紛争や自然災害など緊急時でも迅速な対応が可能になります。

ウェブサイトからのお申し込み(クレジットカード利用)



●単発の寄付

いつでもいくらでも、お気持ちに合わせて寄付できます。

ウェブサイトからのお申し込み(クレジットカード利用)



郵便振込による寄付

上記ウェブサイトでのクレジットカード決済以外に、郵便局からお振込みできます。

郵便振替口座番号: 00110-8-172839

郵便振替口座名: 特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャпон

※通信欄に寄付者のお名前、ご住所等ご連絡先を必ずご記入ください。

遺贈・相続財産・お香典からの寄付

詳細資料をお送りします。事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ・資料請求

電話: 03-3585-6436 E-mail: leg@mdm.or.jp



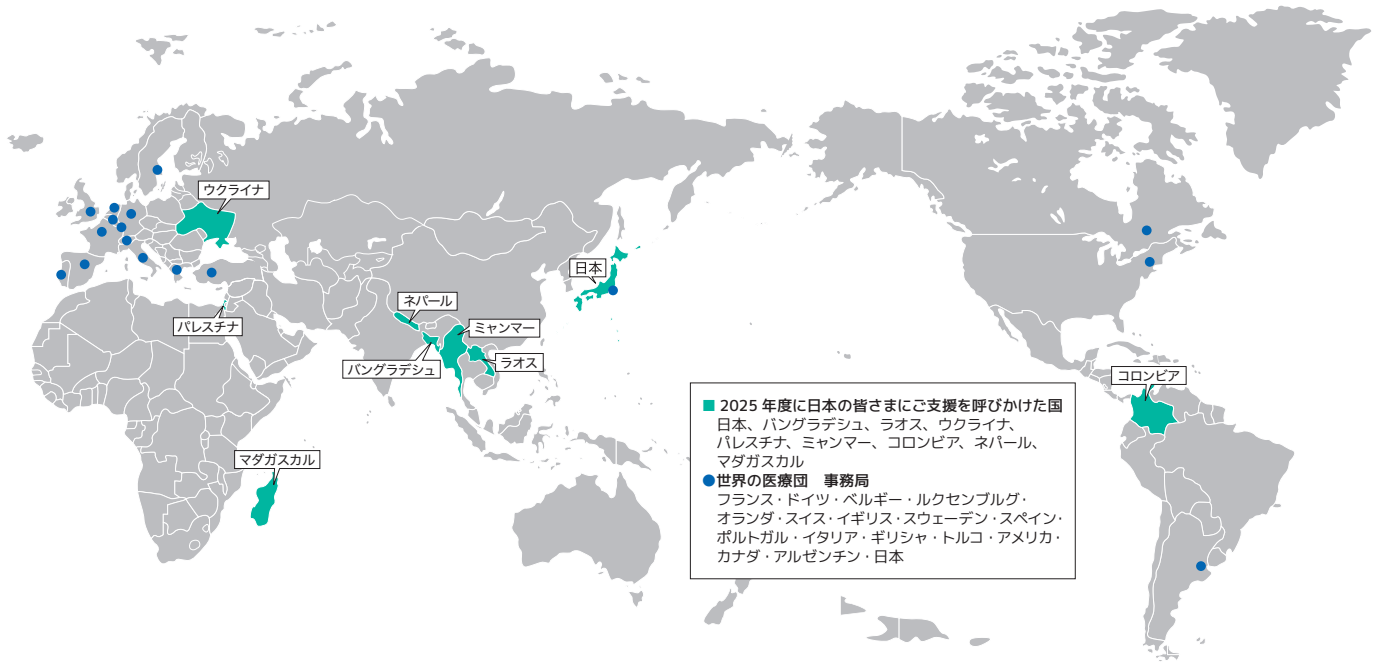
その他にもさまざまな寄付を受け付けています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

支援してくださる人々

2025年12月末現在

●寄付者	4,452人 (法人73団体)
うちマンスリーサポーター	3,154人
●会員	39人
●Facebookフォロワー数	4,819人
●Xフォロワー数	5,966人
●Instagramフォロワー数	1,204人

世界の医療団は17ヶ国に活動拠点があり、70以上の国や地域でプログラムを実施しています。
日本はアジアの拠点として、3ヶ国で4つのプログラムを実施しました。



日本事務局 理事・監事 ※ 2026年3月末時点

理事	石原 恵	看護師	(五十音順)
	大浦 紀彦	形成外科医	
	ガエル・オスタン	PMC 株式会社代表取締役	
	酒向 敦	サコウマネジメントオフィス代表	
	佐藤 直	ワーパシフィック株式会社代表取締役	
	瀬古 篤子	株式会社ヴィジョン・エイ代表取締役	
	橋本 宣幸	株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング	
	日野 慶子	東京都立多摩総合医療センター 精神神経科医長	
	横森 佳世 (理事長)	東京農工大学グローバル教育院 准教授	
監事	佐々木 明子	PMC 株式会社	

事務局スタッフ ※ 2026年3月末時点

赤堀 ガエル	マネジメントディレクター	(五十音順)
ヴァンサイ・トー	プロジェクトオフィサー (ラオス事業)	
エル・アサド・リム	メディカル・コーディネーター	
小川 亜紀	プロジェクト・コーディネーター (ラオス事業)	
尾崎 順子	マーケティングマネージャー	
糟谷 知子	広報担当	
久芳 誠子	総務担当	
グラチョバ・アリナ	ファンドレイザー/ドナーコミュニケーション	
サルワル・カマル	現地運転手 (ロヒンギャ事業)	
シボン・シタボンサイ	プロジェクト・マネージャー、医療専門家 (ラオス事業)	
セング・ソスパン	ハウスキーパー、セキュリティオフィサー (ラオス事業)	
高野 夏樹	ドナーリレーション	
タワットザイ・ボムヴォングサイ	プロジェクト・コーディネーター (ラオス事業)	
スリナー・トングパチャン	会計・アドミン補佐	
	ジュニアプロジェクトオフィサー (ラオス事業)	
ティンカム・マニボン	現地運転手 (ラオス事業)	
トゥラバン・クンカムディー	プロジェクトオフィサー (ラオス事業)	
中嶋 秀昭	海外事業プロジェクト・コーディネーター	
ファ・チョングチャイムス	プロジェクトオフィサー (ラオス事業)	
福島 ゆかり	総務担当	
ブントム・タマチャー	会計・アドミンオフィサー (ラオス事業)	
ベンコング・ソクヴァンサイ	現地運転手、プロジェクトオフィサー (ラオス事業)	
米良 彰子	事務局長	

沿革

- 1995年 阪神・淡路大震災の発生を受け、フランスのNGOのメドゥサン・デュ・モンド (Médecins du Monde) が神戸で活動 世界の医療団 日本を設立
- 1996年 「スマイル作戦」に日本人医師を派遣
- 2000年 特定非営利活動法人 (NPO) の設立認証を獲得。登録名を「メドゥサン・デュ・モンド ジャパン」とする
- 2007年 認定特定非営利活動法人の認定を受ける。翌年以降の税法上の優遇措置 (寄付金控除等) の対象となる
- 2010年 初めての国内プロジェクトとして、東京プロジェクト (現・ハウジングファースト東京プロジェクト) を開始
- 2011年 東日本大震災発生を受けて、岩手県大槌町へ。団体として初めての国内緊急支援を行う
- 2012年 ラオスで小児医療強化プロジェクトを開始。世界の医療団 日本として初めての単独の海外事業
- 2017年 ロヒンギャ緊急医療支援を開始
- 2019年 読者が選ぶ東京新聞広告賞受賞
- 2019年 エクセレントNPO大賞 組織力賞受賞
- 2022年 第1回SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞受賞

2025年度年次報告書

発行人 横森佳世
 発行 2026年4月
 発行所 世界の医療団 (認定NPO法人)
 特定非営利活動法人 メドゥサン・デュ・モンド ジャパン
 Médecins du Monde Japan

〒106-0044
 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F
 TEL : 03-3585-6436 FAX : 03-3560-8073
 E-mail : info@mdm.or.jp
 ホームページ : <https://www.mdm.or.jp>
 Facebook : <https://www.facebook.com/mdmjapan>
 X : https://x.com/MDM_JP
 Instagram : <https://www.instagram.com/mdmjapan>